

令和5年2月24日

豊坂小学校保護者 各位

幸田町立豊坂小学校長 伊藤 美佳

### 豊坂小学校教育診断アンケート結果及び分析等について

早春の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は本校教育にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、過日お願いしました学校教育診断アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。その集計結果をもとに2月14日に学校関係者評価委員会を開催し、委員の方から貴重なご意見を頂きました。ここに、アンケートの集計結果と委員の方から頂いたご意見をもとにした今後の学校運営のまとめをお届けします。よりよい豊坂小学校をめざして職員一同、一層の努力をしてみたいと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。

A…よくあてはまる（そのように思う）	回答数 児童(4～6年)	192名
B…ややあてはまる（どちらかというとそのように思う）	保護者(全学年)延べ	420名
C…あまりあてはまらない（どちらかというと思わない）	回収率 児童	99.0%
D…まったくあてはまらない（まったくそのように思わない）	保護者	97.9%
E…わからない（該当しない）		

※ 四捨五入の関係で1%程度の誤差があります。

### 1 楽しい学校

対象	番	評価項目	A+B
児童	3	学校へ来るのが楽しい。	93%
保護者	3	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。	91%

児童設問のA+Bは昨年度と同じだが、Aの割合が5%上昇している。保護者設問も4%上昇している。この調査項目は最も重要な項目と捉え、C Dの児童も学校へ通うのが楽しいと思えるようにさらに努力していきたい。

### 2 あいさつ

対象	番	評価項目	A+B
児童	4	元気にあいさつや返事ができる。	90%
保護者	4	お子さんは、あいさつや返事がよくできる。	86%

今年度は児童、保護とも上昇している。代表委員会を中心とした「あいさつ運動」により、学校外でもあいさつができるようになってきたと考えられる。今後も、仲間づくり、学校づくりの原点であるあいさつを学校の決まった場面だけでなく、家庭や地域においてもできるように「あいさつ運動」を工夫し、定着を図っていきたい。

### 3 行事

対象	番	評価項目	A+B
児童	5	学校の行事（運動会や相撲大会・とよさかつ子Dayなど）は、積極的に参加している。	97%
保護者	5	お子さんは、運動会、とよさかつ子Day、すもう大会、マラソン大会などの学校行事に積極的に参加している。	94%

コロナ禍は終息していないものの、教師が試行錯誤しながら学校行事の方法を工夫し、実施している。児童は、3年ぶりの行事に積極的に参加していると感じており、保護者にも伝わっていることが分かる。今後も、児童が行事に積極的に参加できるように工夫・改善に努めたい。

#### 4 自治活動

対象	番	評価項目	A+B
児童	6	委員会活動には、意欲的に参加している。	97%
児童	7	学級の係活動などに責任をもって取り組んでいる。	95%
児童	14	自分の目標や学級のめあてをやりとげようとがんばっている。	93%
児童	15	学級に問題があったとき、みんなで協力して解決できる。	90%
保護者	6	お子さんは、委員会活動や係活動、当番活動に意欲的に参加している。	94%
<p>本年度も児童設問で90%を超える高い数値となった。自主的・自治的な活動に意欲的に参加すること、係活動に責任をもって取り組むことは、「生きる力」として大事なことである。これからも学級の問題をみんなで協力して解決できるように、児童の活動を支援し、自治力を伸ばすために、教員の効果的な指導を工夫したい。</p>			

#### 5 授業

対象	番	評価項目	A+B
児童	8	授業は分かりやすい。	96%
児童	9	授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している。	73%
児童	10	授業では、友達の意見や感想をしっかりと聞くようにしている。	96%
児童	13	授業のふり返りや感想、日記などに自分の思いや感想を進んで書いている。	93%
保護者	9	学校は、ドリルタイムや少人数指導・ティームティーチング（複数教師による指導）等により基礎学力の定着を図ろうとしている。	88%
<p>授業について、児童設問の全てにおいて上昇・維持となったことをうれしく受け止めたい。今年度は、感染対策を行いつつ授業を通常に近い形で行え、話し合いができたことが要因と考えられる。これを受け、保護者設問でも数値が上がっている。今後も学習意欲や言語活動の力を高めるために、指導・支援のあり方を工夫していきたい。</p>			

#### 6 体力チャレンジ

対象	番	評価項目	A+B
児童	11	体力チャレンジ（かけ足・なわとびなど）は、積極的に取り組んでいる。	96%
保護者	7	学校は、体力チャレンジや行事、授業等を通して体力の増強と健康の増進を図っている。	96%
<p>児童設問、保護者設問ともに微増で高い数値を維持した。これは、コロナ対策をしながらハンドクラブ、相撲基本動作、5分間かけ足などを行った成果と受け止めたい。さらに、継続して積極的に取り組むことができるように活動のあり方を模索したい。</p>			

#### 7 読書と朝の活動

対象	番	評価項目	A+B
児童	12	読書の時間は楽しい。	89%
保護者	8	学校は、読書等を重視し、豊かな心を育てようとしている。	86%
<p>保護者設問、児童設問ともに微増し、ボランティアによる読み聞かせが順調にできたこと、朝の活動でソーシャルスキルトレーニングを行っていることが要因と考えられる。今後も感染対策をとりながら、読書タイムなど朝の活動を工夫したい。</p>			

## 8 自信（自己有用感）

対象	番	評価項目	A+B
児童	17	学校での生活の中で、自信をもっていることがある。	91%
保護者	10	先生や学校は、子どもの能力や意欲を適切に判断し認め、子どもに自信を持たせようとしている。	87%
<p>児童設問、保護者設問ともに上昇している。様々な活動ができるようになり、その中で自信が持てるようになったと考えられる。C、Dと答えた児童が自信をもつことができるように、今後も、活動を見取り、認め、手だてを見直し、家庭と連携して支援にあたりたい。</p>			

## 9 悩み・いじめ

対象	番	評価項目	A+B
児童	18	いやなことを言われたりされたりして、長い間なやむことはなかった。	83%
保護者	11	お子さんは、いやなことを言われたりされたりして、長い間悩むようなことはなかった。	74%
児童	16	友達のいやがることはしないように、悪口は言わないようにしている。	95%
<p>いじめを含めた意識調査である。数値的には昨年度とあまり変化していない。児童設問 18 の A+B は今年度も微増となった。一方、保護者設問は微減となっている。この結果を受け止め、思いやりの心を育てることに一層努力するとともに、児童設問 18 の C+D の 17% の子どもたちに対してより丁寧に対応をしていきたい。</p>			

## 10 友達

対象	番	評価項目	A+B
児童	19	自分が困ったりなやんだりしたとき、相談したり助け合ったりできる友達がいる。	94%
保護者	12	お子さんは、相談できたり協力できたりする友達が学校にいて言っている。	82%
<p>児童設問の A+B は微増、保護者設問の A+B は横ばいとなった。今後も自分のよさと仲間のよさを大切にする温かい人間関係づくりに力を入れていきたい。</p>			

## 11 先生への信頼

対象	番	評価項目	A+B
児童	20	自分が困ったりなやんだりした時、相談できる先生がいる。	89%
児童	21	わたしたちの気持ちを考え、がんばりを分かってくれる先生が学校にはいる。(担任の先生以外にいる場合でもよい)	94%
保護者	13	先生や学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる。	85%
保護者	14	先生や学校は、子どものことについて気軽に相談できる雰囲気がある。	88%
保護者	15	先生や学校は、子どもの気持ちをよく理解し、認めてくれる。	90%
<p>児童設問、保護者設問ともに上昇傾向がみられる。今後も児童と教員が築いている信頼関係をもとに問題が起こった時には子どもに寄り添い、保護者とも連携をとって解決し、学校と保護者が信頼関係を強化していきたい。</p>			

## 12 良い関係づくり

対象	番	評価項目	A+B
保護者	18	学校は、保護者や地域の人たちと良い関係づくりに努めている。	94%
<p>保護者設問は横ばいと、高い評価をいただいた。教師の意識の高さを今度も継続させ、引き続き保護者や地域の方々との良い関係に努めたい。</p>			

### 13 安全・安心

対象	番	評価項目	A+B
保護者	16	学校は、地震や風水害の場合について適切に対応し、安全・安心な学校づくりに努めている。	93%
保護者設問は引き続き90%を超える高い評価をいただいている。今年度は、運動会時に引き渡し訓練を行った。今後も避難訓練や災害時を想定した対応について見直し、緊急メール配信を工夫するなど安全・安心な学校づくりを推進していきたい。			

### 14 通信・お知らせ

対象	番	評価項目	A+B
保護者	17	学校は、通信や学校ホームページ等を通して学校の方針や様子が分かるようにしている。	94%
保護者設問17はやや上昇し、引き続き90%を超える高い評価をいただいた。今後も、HP通信や学年通信等にて、教育目標や方針、活動の様子などを分かりやすく発信し、保護者との協働体制を強化したい。			

### 15 その他

対象	番	評価項目	A+B
保護者	19	学校から出される通知表の評価は、納得のいくものになっている。	94%
保護者設問19では、A+Bはやや上昇した。C+Dの6%へ目を向け、説明責任に努めていきたい。			

#### アンケート結果を踏まえた今後の学校運営について

- ① 全体
 

全体としては、引き続き良い評価をいただいた。今後も、さらによくするというスタンスで臨みたい。
- ② 楽しい学校
 

「学校へ来るのが楽しい」の設問でA Bを選択した児童は昨年同様90%を超え、保護者も90%を超えてきた。「学校の行事は積極的に参加している」設問も児童・保護者ともに昨年同様、90%以上の高い数値となった。また、「授業は分かりやすい」設問の児童は微増したものの、「学校は基礎学力の定着を図ろうとしている」設問の保護者は減少した。児童が学校生活を充実していると感じる第一歩は、分かる授業であり、そのための基礎学力の定着は重要である。また、学校行事を楽しんで取り組めることも重要なポイントである。今後もこの方向性を大切にし、いっそう学校行事の充実にも努めていきたい。
- ③ あいさつ
 

本年度も代表委員会が「あいさつ運動」を受け継いで工夫を凝らした活動をし、教員の指導も図ってきたので、「元気にあいさつや返事ができる」の設問でA Bを選択した児童が10%以上増、保護者は横ばいとなった。あいさつと返事は、温かい人間関係づくりに欠かせない生活習慣の基本である。さらに、家庭との連携を図り、代表委員会の啓発活動と教師の指導を充実させ、あいさつへの意識を高めていきたい。
- ④ 教師への信頼関係
 

児童と教師との温かい信頼関係は、学校教育の底辺を支えるものである。児童設問の「相談できる先生がいる」は10%以上増加、「私を分かってくれる先生がいる」も大幅に増加した。保護者設問は減少したものの85%以上の数値を得ている。児童が相談しやすい状況や子どもの頑張りを認める方法を模索し、保護者の教師への信頼をさらに得られるように工夫していきたい。
- ⑤ 自信（自己有用感）
 

「先生や学校は、子どもの能力や意欲を適切に判断し認め、子どもに自信をもたせようとしている」設問でA Bを選択した保護者は本年度5%減少したが、「自分には自信をもっているものがある」設問では、児童の割合が微増した。今後も家庭の協力を得ながら、児童の自己有用感を高める工夫をしていきたい。
- ⑥ 自治活動
 

自分たちの生活を自分たちでよりよくしようという姿勢は、社会生活の基礎となるものである。全学年が発達段階に応じた学級活動を行い、4年生以上は児童会活動（委員会活動）も行っている。本年度は、この取り組みに関する児童設問「委員会活動、学級の係活動には積極的に参加している」は両方とも5%増加し、「自分の目標や学級のめあてをやりとげようとがんばっている」の設問は微増した。仲間と協力して取り組むことは児童に身につけさせたい大事な「生きる力」であるので、さらに手だてを工夫していきたい。